



2014.6.2

6月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

子どもたちにとっての楽しみは様々あります。遊園地などはそこに行くだけでキャラクターやアトラクションが楽しませてくれますし、アニメのビデオなどは画面の前に座っているだけで楽しく時間を過ごせるでしょう。しかし、これらの楽しみは受身のものであり、自ら発見したり工夫したりして遊びを広げていくものではありませんし、幼稚園での子どもたちの楽しみはこれらとは異なるものです。

YMCAの幼稚園では子どもたち一人ひとりが、自分で遊びを見つけて楽しむ大切な時間が確保されています。砂場や園庭、そして保育室での様々な場面で、誰かに与えられた楽しみではなく、自らの興味や関心が原動力となって、その遊びをどんどん広げていく時間です。そんな子どもたちの姿を見ていると、子ども自身には自ら成長する力が備わっていることを本当に実感します。もちろん、入園したばかりの子どもは、最初はどのようによいか分からないといったこともあります。すぐに周りで遊んでいるお兄ちゃん・お姉ちゃんの遊ぶ姿を見て、自分もしてみたいという気持ちが芽生えて、その遊びを真似ていきます。

また、この時期になると新入園の子どもであっても、自らこうしようとの意志をもって的確に動く姿が見られるようになります。そしてそういった姿がいちばん見られるのは、ひょっとしたら降園の時の姿かも知れません。「お家へ帰るんだ」という気持ちが、子どもの目的と行動を明確にし、一便目のバスに乗る子どもはそのバスに、また2便目の子どもはそのバス待ちの部屋へと向かいます。また体操やサッカーに参加する子どもはその集合場所へと、一人ひとりが自分の明確な目的に向けて、誰かに誘導されることなく自分で向かいます。こんな子どもたちの姿を見ていると、大人が常に指示し誘導して動かすのではなく、子ども自身が自ら考え判断して動き出すために必要な時間と機会が、今の子育てに一番大切なように思います。もうすぐ参観週間がやってきますが、ほとんどの親は、わが子しか見ていません。また見ているだけではなく、子どもの視線に入り込み、その表情で無言のプレッシャーを与えている親がいることも事実です。しかし、そういったプレッシャーを受けて参観を負担に感じる子どももいれば、親の目などは気にしないで遊びに夢中になっている子どももいるでしょう。そしてこの違いは、きっと日常の親子関係がそのまま現れているのだと思います。

幼稚園の一番の値打ち、そこに親がいないことです。指示をしたり頼ったりする親がいない所では、子どもは自分の力を使って過ごすことになります。親がいないことで、子どもにとっては否が応でも、自分で考えて判断せざるをえませんし、結果的にはそのことが楽しく自信にも繋がっていくのです。本当の楽しみは与えられるものではなく、ある時には思い通りにならなかったり、また失敗したりしながら自ら見つけ出すものなのです。そんな風に幼稚園でがんばっている子どもには、しっかり受け止めてたっぷり甘えさせてくれる親が必要であることは言うまでもありません。そんな幼稚園と家庭があるからこそ、子どもが安心して心豊かに成長していくことを忘れないでいたいと思います。

年主題 「あふれる愛 - これからもともに - 」

<年主題聖句> 「わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」

(創世記 28 章 15 節後半)

6月主題 「動き出す」

聖句 “あなたがたの上に精霊が降ると、あなたがたは力を受ける。”

(使徒言行録 1 章 8 節)